

# 仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所  
 980 仙台市本町一丁目2番12号  
 電話〇二二二二二一七三七七番  
 編集・発行人 首藤 正義

第20回世界広報の日(5月4日)

## 世論づくりーあなたもその担い手ー

教皇ヨハネ・パウロ二世は「カトリック広報の日」にあたり、全世界の教会に教皇メッセージを送られた。

教会が第二バチカン公会議で「広報の日」を定めたのは、マス・メディアへの教会の様な使徒的活動の強化とマス・メディアの重視のあらわれであった。今日、マス・メディアの影響力を考えると、一層その重要性が増し加わっている。

今年、キリスト教的な世論づくりとマス・メディアの役割を教皇は強調された。

仙台司教区50周年記念

### 仙台教区大会

メインテーマ

「明日の教会を

めざして」

期日：昭和61年9月14日(日)・15日(月)  
 場所：仙台白百合学園



### 世論とは

世論は、特定の時期、特定の場所で、相当数の人が抱く共通の思考や感情の中から生れる。世論は多くの人が特定の文化的、科学的、倫理的権威を持つ人々の思想なり発言なりを是認し、受け入れることによつて作られる。従つて、世論は人々が何を、どのように考えているかを示す指標でもある。

### 世論の影響力

世論は、特に自分で判断することの出来ない若者や人々に対し、その思想、感情、行動に大きい影響力を持つ。又立法に対しても強い影響力を持ち、正義に反する法律、例えば人工妊娠中絶の合法化が行なわれるのも、世論がその方向に動くからに他ならない。生命の価値、家族の価値、平和や正義や連帯の貴さなども、やはり世論によつて強く影響されるのである。



### 世論をつくる

現代社会において、新聞、映画、ラジオ、テレビなどのマス・メディアは世論をつくるための最も有力な道具である。従つてその分野で働く者の責任は重大である。本来、マス・メディアは人類に奉仕し、人類社会の最も重要な真理と善に添う世論づくりの務める義務がある。

正義、平和、友愛、宗教的・倫理的価値観づくりは同時に神の国建設に参加することであり、キリスト者はキリストの価値観に添う世論づくり一人ひとり招かれている。

### 司教様の日程

(4月20日現在)



- 5月7日 神学校常任司教委員会(東京)
- 8日 常任司教委員会(東京)
- 9日 カリタス・ジャパン(東京)
- 10~11日 五所川原教会訪問
- 12日 教区司祭団役員会(仙台)
- 14日 社会福祉法人理事會(仙台)
- 15日 カリタス・ジャパン(東京)
- 18日 聖霊降臨祭(元寺小路)
- 24日 社会福祉法人評議員会(仙台)
- 25日 仙台司教区修女連研修會(仙台)
- 26~27日 教区司祭団月例会(仙台)
- 28日 中央協・財務委員会、カリタス・ジャパン(東京)
- 29日 常任司教委員会(東京)
- 6月1日 寿庵祭(水沢)
- 9日 教区司祭団役員會
- 9~14日 司教会議(東京)

会津神学生  
宣教奉仕者に選任



去る3月26日(聖水曜日)、司教と司祭の深い結びを示す聖香油のミサの中で、十字架のヨハネ・会津隆司神学生が宣教奉仕者に選任された。

宣教奉仕者は神のことばを告げる者とも呼ばれ、教会の宣教に協力することを任務とし、神の民の中で特別な役割が与えられ、神のことばにもとづく信仰の奉仕役である。具体的には司牧者の指導監督のもとに、典礼集会で神のことばを朗読し、子供や大人に教理を教え、秘跡にあずかる準備をさせ、まだキリストを知らない人に救いの教えを告げ知らせる。

仙台教区には会津神学生の他に、昨年神学校に入学した宮崎正美・氏家和仁・小野寺洋一の3人の神学生がいる。

司祭の高齢化が進行している中で、若い4人の神学生が頑張っていることは教区民にとって心強いことである。

しかし、司祭が一人誕生するまでには長い年月を要する。司祭の高齢化・新司祭の誕生・神学生の人数、この3つのバランスを考えた時、仙台教区として4人神学生が居るということは決して多くはなく、むしろ毎年、切れることなく司祭志願者を神学校に送ることが緊急課題である。

そのためにも、今まで以上の召命のための祈りと青少年育成に励み、経済的基盤である一粒会運動が活発になることが望まれる。

司祭館 新築なる

— 東仙台教会 —

東仙台教会ではかねてから懸案であった新司祭館の建築が成り、去る4月6日、市内の司祭・修道者を含む約70人の参加を得て祝別式が佐藤司教司式の下で行われた。

小高い丘の白亜の司祭館は、宣教司牧のため司祭の心身をいやす場を提供することになる。木造平屋建の司祭館は建築面積69・91平米、床面積66・59平米で大青工業KKが請負い、工事総額905万円であった。

尚、式後簡素ながらも祝賀の茶菓が準備され、その中で、佐藤司教の司教叙階10周年と還暦も祝われ、東仙台教会にとって、二重の喜びとなった。

誓願式行なわれる

— 聖ウルスラ修道会 —



雪の降りしきる3月23日(枝の主日)、仙台市一本杉修道院(ウルスラ会本部)で誓願式が行なわれた。司式司祭ポール・ラヴォア師と5人の共同司式司祭、並びに100余人の参列者の前で終生誓願・小林道子(浪打)、初誓願・秋山良子(築館)、誓願更新・伊藤幸子、片岡八重子の4人の姉妹がそれぞれ立願した。尙この日、鈴木照子さん(塩町)が修練期に入った。

式の中で、修練者のための聖書学等の指導に当たっていたイヴ・ペロー師が説教をし、イザヤ書を引用して神への感謝、両親・ウル

スラ会の姉妹への感謝を強調された。立願者はそれぞれ、ウルスラ会の施設で務める。但しSr片岡は週4日間、塩釜教会(平賀師)の手伝いをする事になっている。官古に

菊池功新司祭を迎えて

岩手・官古教会 河合 嘉子



今年の御復活は、私達にとって、あふれるばかりの喜びで胸一ぱいでした。長い間の祈りに、神様は実を結んで下さったのです。

それは、官古に生まれ育った菊池功新司祭の初ミサが、捧げられたのです。そして名古屋の神学院院长様とアメリカの神父様、又、盛岡から多くの方々をお迎えして、言葉に言いつくせない程の感激でした。その感激は、ハンカチで目をおさえている人々にみられました。又、祝賀会には、盛岡の阿部様の見事なマジックにも息をこらえてみとれてしまいました。婦人会の数々のおどり、歌などに時のたつのを忘れてしまふ楽しい一日でした。

菊池功神父様は、アフリカのガーナに宣教に旅立つのも間近です。そこには、今までにはない試練もあるでしょうが、神様が共に居られ、支えて下さることでしょ。

私達の祈りを聞き届けて下さった神様に、今までの感謝と、これからも菊池功神父様のために、私達の祈りが続けられるようにおねがいしなければなりません。祈りにまさるものはありません。又、官古の私達にとりましてこの上もないほまれといえましょ。

192 センチからの日本の眺め(5)

愛国心は反キリスト教的であるか

村首ステファノ

ひとが自分の国を愛するのは当然のことである。では自分の国を愛するとはどういうことなのか。「オリンピックで日本の選手が勝ち、日の丸が上がり、国歌が流れるのを聞いてうれしくなって泣いてしまった」。愛国心はこのようなことだろうか。考えてみると、案外とむずかしい問題である。

ひとは、一人ひとり自分のことを大事にしてその良さを認め、自分を愛することは当然のことだと思う。自分の親、子供、妻、そして親類を大事にし、自分の村、県、地方、国、アジア、そして全世界を大事にするのは当然である。自分から出発して全世界の人々まで一直線に広がって全部を大事にしなければならぬ。それなのに、何故か、国でとどまり、愛国心のみが強調されてしまう。

愛国心には何か危険性が含まれているような気がする。

自分の国が一番良い国だという思い、それ自体はそれ程問題ではない。ただその中に、自分を一段上に置き、他の国の人をけいべつする心がその中に含まれていないだろうか。

また、これは大事なことだと思いが、自分のことしか考えられなくなるという危険性。そのようになれば、非常にエゴイストになる。そしてイヤな人間になってしまふ。例えば、自分の家族のことしか考えられず、他をかえ

りみることの出来ない人は何となくイヤな感じがする。もちろん自分を大事にすべきであり、家族も大事にすべきである。しかし、ただそれだけというのはどこかおかしい。

ところが、国のこととなると、オカシイ、と思う人が少なくなり、あたりまえのことになってしまふ。例えば、日本の利益になればそれでいいのではないかと。でも、日本の利益のみを考えるならば、やはりどこかオカシイのではないか。

それではどのように考えたらいいのだろうか。愛国心ということばがあつてもいい。しかし同時に、愛県心、愛東北心、愛アジア心、愛世界心というものもあつていいのではないか。むしろ、あるべきではないか。国だけ特別扱いするのはオカシイのではないか。

愛国心のみを強調すると反キリスト教的になる。聖書を見ると、ユダヤ人は非常に自分の民族意識が強かつた。しかし、イエス・キリストをみつめ、イエス・キリストがどういう方かを理解すると、国籍は問題でなくなり、ギリシヤ人であるとか、ユダヤ人であるとか、自由人であるとか奴隷であるとか、もう関係がなくなる。キリスト教の根本は、私たち人間は皆兄弟であるということ。口先だけでなく同じ父がいらつしやるから。たとえ兄弟として認めたくなくとも、また、私をけいべつする人であつたとしても、事実、人は皆私の兄弟なのである。そこから、国だけを考へてしまふと、どこか根本的なところでキリストに反することになるのではないか。

練成会を終えて

元寺小路教会・高校生会

3月31日から4月2日にかけて、シスターモニックの指導による練成会が行なわれました。二泊三日という短い間でしたが、内容の充実した練成会となりました。シスターのお話ししてくれた事の中で印象的だったのは、自分の欠点と戦おうとせず長所を伸ばそうとすることが大切だということでした。というのは、欠点をなくそうと努力すると長所を伸ばすことにならずに気がまわらなくなるからです。

実際に、欠点のない人はいないわけで、欠点のないのは神様だけです。長所を伸ばすことよつて自分の欠点は消えはしないけれど薄れてくるのだそうです。また心の泉というものにおいてみると、自分は欠点だらけの間だと思つていた私達にも、自分のよさをたくさん発見することができて、自分に希望をもつことができたのはうれしいことでした。

それから、ふだん会うことのできない多くの人と友達になれたことも大きな収穫でした。はじめは、お互いにぎこちなかつたけれど、わかち合いをしていこううちに、ずいぶん前からの友人のように親しくなり、最後には別れをおしむほどになりました。

この練成会を通して、今まで知らなかつた自分の宝物をみつづけることができ、その宝をなくすことのないようにこれから生活していきたいと思ひます。またこのような素晴らしい出会いができたことを神様に感謝します。

スカウトは

いま

八戸

塩町教会

教会に新しいスカウティングを

ー宣教・布教とスカウティングー

わがボーイスカウト青森第21団は、昭和37年にカトリック八戸塩町教会所属の団として設立された。

設立時の主任司祭は、今は亡きフォートン神父様。当時、教会に好意を寄せていた八戸での有名人・外科医であった種市良春先生と私が、青少年訓育の一つとして、ボーイスカウトの設立を思い立った。

教会の近くには、聖ウルスラ修道会経営の白菊学園小学校があり、男子は、中学校に進学すると、せつかく小学校で学んだ宗教もそこまで、教会から離れて行くばかり。ボーイスカウトは、一つのつながりを保つための手段でもあった。

私は今、白菊学園高等学校に勤務しているが、大学時代、仙台畳屋丁教会に入入りし、そこでボーイスカウトの活動を知り、いつか自分でやってみたいと思っていた。さつそく種市先生の所属している八戸ロータリークラブに出向き、卓話をさせてもらい、経済的援助をいただいた。

初めは、真に宗教的な集会でなければと、ミサに全員出し、その後、神父様から聖書



の話をしていただき、訓練に入るといふものであった。従って、日曜日午前9時から12時過ぎまでかかるような状況であった。

結果は、失敗。今は、ミサに出るのは、復活祭とクリスマスの時ぐらいで、私の理想とはかけ離れてしまっている。

しかし、38年度から実施している「早朝ハイイク」は、伝統的な行事となつて、23年間続いている。これは、巡礼の意味を込めて、1月10日前後にある日曜日に行うもので、土曜日塩町教会に宿泊し、日曜日朝、午前5時、真つ暗なところ出発、歩いて隣りの鮫教会までハイイクをするというもの。途中、湊の橋の上で聖書を読み、朝早くから働く人をじかに見、人生とは何か、を体得する。

鮫教会では、ミサに出、終了後、馬小屋の前で、ボーイは三つの誓、カブはカブのさだめを一人ひとり唱えさせる。その後、集會室でとん汁、その年によつては、しるこ・ひつつみなどで会食をする。ガールスカウトが一緒に参加したり、地区の他団のスカウトが参加したりして、今日まで続いている。

私は、ウッドバッヂを取得したり、県コミッ

仙台教区広報担当者のつとめ

講師 長谷川昌子修道女(女子パウロ会)  
日時 6月7日(出)6時~8日(日)11時半  
場所 東仙台・光ヶ丘研修所  
持参品 宿泊の用意・シーツ一枚・参加者に配布する最新の教会報30部程度  
会費 一千円(朝食・おやつ代)  
申込は、仙台教区広報担当司祭・首藤まで。

シヨナーをしたり、かつこう章をもらつたりしたが、自分の名譽のためではなく、わが団のスカウトが誇りを持つてば、というためであった。

23年間スカウト運動をやり、今日に至っているが、カトリック教会のスカウトはこうありたい、ということとは、いまだに実現してないのが残念です。

魅力あるカトリックスカウトは？これが、私の課題です。子供もリーダーも多忙に過ぎ、余暇活動の限界を考へるこの頃です。

いじめの中で、スカウト運動こそが、その救世主的役割を果せるのではないかと思ひ、布教・宣教のためにも、スカウト活動を真剣に考へる時期ではないかと思ひます。(藤村)

第19回「新世界」黙想会

主題：聖書で祈る  
指導：沢田和夫師(東京教区)  
日時：6月14日(出)夕食15日(日)午後3時  
会場：聖ドミニコ会祈りの家  
会費：五千元 定員：15名  
主催：思草庵(980仙台市連坊2-12-6)  
渡辺方 電話〇二二一-91-三五七九

編集後記

ソ連の原発事故は放射能汚染の脅威を架空の話ではなく、地球全体にかかわる身近なものとした。今なお風に乗つてやってくる「見えない侵略者」に世界は手の打ちようがない状態である。為政者には一國の問題と一國を超える問題との区別に対する聡明な知恵が要求される。また、人類一人ひとりはそれを要求する権利がある。(首)